会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和4年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業  （２）教職員の資質能力向上の推進②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回学習評価ワーキンググループ |
| 開催日時 | 令和5年1月23日（水）　10時00分～12時00分 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル貸会議室（オンライン併用） |
| 出席者 | 事業責任者等：岡村　慎一、上里　政光　　　　　　　　　計2名  委　　　　員：植上　一樹、小田　茜、近藤　賢宏、岩崎　千鶴、  丹田　桂太（OL）、水田　真理（OL）  計6名  請 負 業 者 ：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計9名 |
| 議題等 | １．スケジュールの確認と今日の位置づけ  ＜学習評価WGについて＞  ・場所は福岡　（オンライン併用）  ・6回の実施：主な議題  6月　2022年度の計画  8月（9月）　2021年度版研修の振り返りと修正に向けて・2022年度版の調査について  10月　3・4時間目のプログラム案の検討①  12月　3・4時間目プログラムの検討②  1月　2022年度版研修の振り返りと修正に向けて  2月　事業全体の評価とまとめ  ＜研修について＞  ・1・2時間目プログラムの研修の実施（7月―10月）  ・3・4時間目プログラムの研修の実施  　12 月 9 日（金）13：30～17：30：沖縄（研修＋調査）・講師：小田、佐藤  12 月 23 日（金）10：00～14：00：京都（研修＋調査）・講師：小田、丹田  1 月 12 日（木）13：00～17：00：岡山（研修＋調査）・講師：植上、佐藤  ＜調査・評価について＞  ＜前回のWG（12月19日）からの進捗＞  ・2回の研修・調査の実施  ・研究者ミーティングの実施と、3・4時間目プログラムの改善 ――――――――以上―――  2．京都・岡山研修の振り返り  ・京都研修について（小田・田澤）  小田  →資料「0123京都研修（報告）」をもとに、京都研修の振り返りについて報告。  ――以下、資料を全て記載――――  2023年1月23日（月）学習評価WG会議報告（文責：小田）  京都研修報告  （１）概要  実施日：2022年12月23日  実施場所： YIC京都ビューティー専門学校  講師：小田・丹田  対象：学科単位のグループワーク（美容科教員3名、エステメイク科教員3名、ブライダル科教員2名）3グループ  （２）実施後の意見＜改善すべき点＞  3限  ・ワーク2の手順のところで説明が不足していたところがあった。コア科目は幾つかあると思うが、段階があると思われる。理想は、全ての科目について、段階の関係を見ながらワーク２を完成させることだが、今回は時間の都合上難しいので、科目・行事名だけはとりあえず並べてもらった上で、1つの科目についてその詳細を考えてもらう、という説明が必要だったと思われる。１年次前半、１年次後半、２年次のどれを研修ワークでやらせるかを指定した方がいいのではないか、とのご意見をいただいた。先生方からは、「現場の先生は、まず２年生で最終的に身につけてほしい力を意識されると思うので、２年次の科目を指定させたほうがいいのではないか」というご意見があった。美容学科は着任１年目の若手ということもありワークに慣れておらず、最初に「国家試験」を取り上げていた。小田のほうで、フォロー・誘導をして科目の方に落とし込むよう伝えたが、この点に混乱が生じないような工夫が必要。  ・ ワーク3についてこちらの指示が不十分だったので改善の必要あり。評価水準シートの記入の際、まず個人で書いてもらい、その後チームですり合わせを考えてもらったが、評価の「場面」についても個人で考えてもらったため、それゆえに先生方どうしで場面のずれが生じたまま、ワークシート作成に至ることになってしまったので、指示の修正が必要。  4限  ・ ワークの目的や実際のワークの時間は短くできるのではないか。多くのワークが「ざっくばらんに」話してもらうことに重きを置きすぎており、目的が見えにくくなっている。事前課題とすることで時間の短縮を図ることも可能だが、3限目を考慮するとなるべく事前課題は少なくしたい。ワークシートを用意することで、各ワークにおける目的や到達点を明確化するとともに、間延びした時間を短縮する。  全体に関して  ・ 3限・4限の時間…全て説明すると冗長な印象がある。もう少し色々省いていいと思う。  前回　3限90分、4限80分　　170分（2時間50分）  今回　3限110分、4限85分　　195分（3時間15分）  ・ ワークのグループ人数について、本研修はどの規模で設定するか検討する必要がある  ―――――――――以上―――  丹田  今、小田さんから話いただいたことを踏まえて、各時限の担当者間でこの後に持ち合せを行って、年明けの岡山研修に臨んだというような経緯があるので、今回この京都研修で出た意見がどういうふうに改善されたのかというのが、次に水田さんにご報告いただく岡山研修の中で改善点と現れているかなっていうふうに思う。  →京都については、とりあえず報告は以上。（植上）  ・岡山研修について（水田・岩崎）  植上  続けて岡山だが、京都研修が終わった後に、3・4限、特に、まず長すぎるっていうことがあったので、できるだけ省くように工夫した。特に4限についてはもう60分で終わるようにということで、だいぶワークとかパワーポイントもスリム化していき、3時間目については、できるだけポイントを明確にするっていうのは工夫をしていった。また、いろいろご意見いただく中で、改善点を反映するという時間でやっていたっていうような工夫をしたっていうところが主なええポイントだったかなっていうふうに思う。そのような形で、岡山は、私が4限、そして佐藤さんが3限という形で実施した。  水田  岡山研修の全体の流れっていうと、京都研修で出た課題ってのはどちらかというと手順とか手続きとか、やり方だとかそういうところの細かい課題が出て、でそれを岡山研修で改善して臨んだということだったので、非常に流れとしてはスムーズに研修が進んだかなというのがまず全体の流れとしてはそういう感想というか、そういう研修が行われたっていうことだった。ただそこの手順が解消されたがゆえに、今度じゃあこの研修を実装して行く時に、これで本当に実装できるのかっていう課題、新たなもう少し大きな課題が出たかなという研修だった。具体的には3限の課題が、非常にハードで、段階を踏むことが非常に多いので、今回は佐藤さんにやっていただいたが、その流れがわかっている人でなければ、時間内に収めることが難しい分量、というところが一番大きな課題として出たかなと思う。それから、この研修が1限から4限につながっていくということを考えると、全体の見取り図がないと、研修を今回はここをやります、それでは次はここやります、というような見取り図がないとかなり難しいものになるのかな、と。一気に最初から最後までやり通せればいいが、これを順繰りにやっていくということになると、見取り図が必要かなということで。その時の打ち合わせの時に、共有できるものがなかったので、その時の打ち合わせの時に、（画面にてメモの共有）皆さんから見て左側の普通の授業でやっていて、評価しているのが「専門能力」というところであると、非認知能力の梯子、階段っていうところがこういう風にあるよとか、そこに人材像があって、1限2限でここやりますよとか、3限4限はこの階段の作り方やりますよ、とか、もう少し概念的に見取り図を出してあげて、かつ、3限4限というところを、3限のところはもう少し細分化をしてあげないと、実装のときには苦しいんじゃないかと言うような意見が出ていた。  →　基本的に3・4限に関しては、だいぶ京都でいただいた意見は改善ができたが、改善されたがゆえに、特に3限のある種のハードさみたいなものが浮き彫りになったっていうこと、本当にそうだと思う。私も見ていたが、すごくやっぱり大変な内容だったので、1時間のコマでやる内容じゃないかもなっていうの改めてちょっとなんか思った次第だった。そのことと全体の見取り図みたいなものっていうのが必要だってことが、より明確になったってご意見を水田さんからいただいた。受け入れていただいた岩崎先生はどうか。（植上）  岩崎  今おっしゃっていただいてるように3限目のボリューム感ということがあったが、ただ教師からすると、最初のきっかけをいただいたので、その後本校で、継続的な研修の材料というか、それいただいたなというふうな意見が、ほかの教師からも出て、その後それをもっとより深く考えていこうという研修させていただいた。なので、あくまでもそのきっかけではあったが、そこで完成させることは難しかったかもしれないけれども、それを各校それぞれに深堀をしたり、考えの幅を広げさせたりとかっていうことにはつながったのかな、と思う。  →　特に3限、岡山の振り返りでも私もちょっとお話させてもらったが、非認知能力っていう観点からになるが、カリキュラム論と授業論の2つが入り込んでしまっている作りになっていて、本来だったらこのカリキュラム論と授業論は1コマずつやっていい内容だが、それをギュッとまとめて1つに入れているので、相当ハードなつくりになっているなというふうに思う。この辺りは先ほど水田さんがおっしゃってくださった通り、見取り図のところで明確に書くのに加えて、後でお話する研修プログラムの手引きなどでも、その辺りちょっと解説をしていきたいなというふうに思っている。今後このプログラムを改善するとすると、特にこの3限をどういうふうに2つに分けているのかっていうこともちょっと、今後、視野に入れる、というか手を付けないといけないことだなと強く思った。（植上）  ・3・4時間目についての意見交流  植上  今、3限4限について、全体として京都・岡山を経て、ハードな面とか難しい面が浮き彫りになったが、今年度のある程度のところは達成できたんではないかなというふうに考えているが、参加いただいたほかの先生方からも、ご意見いただいて、最終的にあと1カ月ぐらいで、完成に向けて修正を図っていきたいので、ぜひご意見とか頂ければなというふうに思う。  近藤  岡山研修に参加して、振り返り会議の議事録を出していただいたと思うので、そこにもちょっと書いてることと重なるが、研修プログラムの内容については、すごく情報もたくさん入っていて、その部分に関しては特にないが、今話にあったように、情報が多いがゆえに3限目で時間が掛かっているっていう話があるということと、この研修を受けた後に、受講した方々はきっとこの研修の中でグループワークとか、そういうとこで話したことについては、もっとこう自分自身の学校の現状を照らしてもっと話がしたくなるような、この研修で終わりじゃなくて、研修でちょっと少し話題に上がったけどあのことについてもっとこうやるべきだよね、っていうような感じで、学校運営とか学科の推進にすごくあの貢献するような研修だなというふうに思っている。あと受講する方の立場によって、本当に担任業務とか、授業を実際に実施している現場の教員という立場で参加すると、自分のじゃあ授業計画とか評価とかどうなっているのかなっていう視点でも見れるし、学科の責任者とか学校の責任者の方が受講した場合は、またこう3つのポリシーから、方針とかいろいろ育成人材像とかいろんなものを照らして、バラバラになってないかとか、それがつながりがあるのかどうかとか、それがカリキュラムとかそういうところに反映されているのかみたいな視点で、この研修を通してまた気付く部分もあるのかなと思っているので、教材の部分というよりは手引きの部分でそういうところがすごく検証を通して発展的に推進できること、みたいな感じで情報提供できるといいなというふうに思っている。  →　近藤先生も岡山でお話いただいたように、話したくなる内容だということで、やっぱり岡山でもあったが、その後の5時間目をどうするかとか、アフターフォローみたいな話も必要だっていう話と、一方で、手引きで改めて情報提供していくことによって、知識の定着とかを図っていくっていうようなところは、その通りかなというふうに思った。（植上）  岡村  ある一定の成果としての研修プログラムができたな、と。あとはこれを継続して行かないといけないな、というふうに思っていることと合わせて、今植上さんおっしゃっていただいたように、やっぱり少しボリューミーな、奥行きがある内容なので、この奥行きがある所を皆さんが具体的に落とし込むための、もう1つの詳細なプログラムっていうのがやっぱり必要だと思うし、実際の専門学校は、ご存じなように、先生方が忙しいので、研修は受けたけどもその研修を実行に移すというところの接続がなかなか難しくて、そこの勇気づけというか、仕掛けが必要なんだなっていうのは、現場を見ていても、すごく感じるところなので、今後は、1つはさっきもDPからAPの各々の階層別の接続をどういう風にコーディネートするかっていうところが1つどこか抑えること必要だなと思うのと、もう1つはOJTでこういうところを、どういうふうにやっていくかっていうのは、今近藤さんがまさに言っていただいたような、そういうコミュニティの作り込みみたいなところの学び、みたいなものが必要だなっていう。それがないとやっぱり実効性がなかなか伴わないというか、日常のPDCAに回さないというところがあるので、それが必要かなんて話を聞きながら思った。だから、それができるメンターというかな、ディレクターが現場に必要なんだなって言うのはうちの現場を見ても感じるし、今まさに近藤さんが言っていただいたようなことが、立ち話で何人かはやってるんだろうけど、日常的に業務としてそれがOJTとして学習につながっている、それが学生に還元できているというところにするための研修にしないといけないな、なんて言うのを、三菱総研さんの研修の結果を見ていても、研修やってんだけど、大体報告出ると、1人あたり10時間未満が大半で、それがそのまま実効性がどこまであるのか、みたいなところがあるので、ここは課題だなというのは思っていた。ちょっと大きな話になるが。  本当そこは、OJTという観点は、その通りだな、と思う。一方で、先生から成果として、とりあえずまとまりができたということで、ちょっとホッとしている。（植上）  上里  プログラム的には、もう出来上がってきてるのかなというふうに感じて、京都の方では実際に見させていただいた。細かい部分で、先ほど小田さんから話があったように、京都の方で話したことは、グループ人数として適切な人数がどのくらいなのか、というところも含めて、この研修をやるにあたって、定義するのかどうかっていうところ。少人数だと多分グループワークでまとまりやすいと思うが、偏りが出てこないかということがちょっと疑問になったので、その辺の1グループ3名なのか、2名でもいいのか、ちょっと2名のところが気になったので、そういうところが研修をやるにあたっての細かい部分かなというふうに思った。あとは先ほどからいろいろ話が出ているように、今後これを継続的にやっていくために、どういう仕掛けを作っていくのかっていうところと、あとは本当に我々学園の方でも、やっぱり研修を受けてこれが実践につながっていくのかっていうのが、常々どの研修の課題にはなっているので、近藤先生がおっしゃったように、メンターなのか何なのかというところも含めて、受けた人とあとはこの研修を受けた後もフォローアップの部分でどうつなげていくのかっていうのは、今後の課題なのかなというのは、実感している。あとは、ボリューミーな部分を先ほど60分でコンパクトにはしたのはいいけど、今度は、それを担当する教員・職員が、佐藤さんができた、というところも含めて、誰でもできるようにどういう風に組み立て行くのかなっていうところは課題かなというふうに思った。中身は出来上がってきていると思うので。  →　今後の課題というところで、継続的にやっていくため、あとはメンターの必要性について。メンターの必要性というところは、浮彫になってきたことかな、と思う。あとグループ人数とか、この研究どういうふうにやっていくのかっていう設定の仕方については、またあとで話すと思うが、手引きとか研究プログラムのパワーポイントで1番初めのページとかに、この研修を受け入れに当たって現場の設定の仕方みたいなところについては、やっぱり手引きかパワーポイントに入れていきたいかなというふうに思う。 （植上）  丹田  今、先生方にお話をいただいた通りかなというふうに思う。中身については、ある程度、研究者間でも話が出来て、またこのWGでも共通の認識が出来上がってきているところかなというふうに思うので、今話題に挙がったこの研修の、特に3限目の所をどうするのかっていうこと、全体の流れが見えるように、もちょっと作っていく、そのやり方どうするのかっていうこと。また次に、この研修を繋げていくために、またじゃあどうするのかっていうところが、主にポイントになるかなというふうにお話を伺いながら思っていたので、この後議論できればなというふうに思った。  →　丹田さんには、特に今回4時間目を中心に作っていただいたが、私岡山で4時間もやらせていただいたが、4時間目の設定に当たっては、特に高岡先生が、やっぱり学生たちの多様な成長や多様な側面を非認知能力の観点から浮き彫りにしたいっていうようなご意見があったので、4時間目をきっちりと作っていこうという話で作った経緯があると思うが、私は4時間やってよかったなと、強く思っている。特に岡山ですごく印象的だったのが、グループワークが非常に盛り上がったというか、岡山の先生たちがいろいろやられてるなっていうところとか、学生への対応の仕方がすごくやっぱり熱心だなってことが、浮彫になった。私もすごく印象的だったのは、例えば情報系の学科だったと思うが、そこでワークするときにAさんのことをちょっと思い出しながらやろうかとか、具体的な名前を出しながら、このワークはあの人の事例に似ているね、とかを共有できるところが、すごいなあっていうふうに思ったし、むしろあのような形でワークの場がご提案できたのは良かったなというふうに思う。むしろやってるこちら側として、もっと深いレベルのことをやったほうがよかったのかなっていうふうに思うぐらいだったが、いずれにせよ専門学校の強みっていうのが、非認知能力的なところからの学生対応とか、学生指導にあるということを、改めて講師側も認識できたかなというふうに思う。4時間目は4時間目で、あのような形であったよかったなと思った。まあ特に3時間目が難しかったので、4時間目でちょっと1回、またリセットするっていうのは大事かなというふうに思った。（植上）  飯塚  研修の内容については、研究者の皆さんが、ご尽力いただいて、もう全然とっかかりもないようなところから、1つ投石できたのではないかなと、素晴らしいことができたんじゃないかなと言う風に思っている。こういうものって、はい出来ました、で終わりというものではないので、やはりここから、研修自体を成長させていくということが必要かなっていうふうに思う。それから僕は、研修プログラムっていう話になった時に、やはり自立性。このプログラム自体が実際に自立して、ほかの方々もできますかみたいなところっていうのは結構重要で、その部分っていうのは、ここから先少しずつ改善していけばいいのかなっていうふうに思う。それからもう1つ非常に私なんかがうちの業界とかで研修設計するときに、対象の条件、研修が対象者っていうのが、現状はもう特定の学校に絞り込んで、その中で人材を選出していただいて、という形でやっているが、これがいろんな学校さんが混じってできるのか、みたいな話とか、同一分野の人たちが集まった方がいいのか、とか、その辺の条件の整理をしてみると1つのプログラムとして成立するんじゃないかなと思う。内容面というよりは、どちらかというと運用面ということかなと思っている。本当に、内容的には、本当に何もないところから素晴らしいものができたじゃないかなと思う。  →　そういう風に言っていただけて、ホットしている、うれしく思う。先生方も本当にありがとうございました。結構研究者グループも頑張った、と思う。喧々諤々なりながらやってたので、そう言っていただいて、ありがたいなというふうに思う。で一方で、やっぱり先生方から頂いたご意見とか、アクションリサーチ系っていう形で、つまり作っては変える、作っては改善するっていうこういう形態でプログラムを作れるっていうのは、研究者としてはすごくありがたい。やっぱりこちら側の思いだけでやっちゃうと、どうしてもうまくいかないし、またやっぱり先生方と協力しながらつくっていくというこの過程自体にいろんな発見とか意味があるのかなっていうふうに思っているので、むしろ研究者側の課題としては、いただいたこのプロセスを、プログラムっていう形のアウトプットとはまた別に、研究っていう形でのアウトプットで、やっていきたいなというふうに思うし、またそれをやっていくことで、ちょっともうちょっと足腰強くして、ちょっとテキストとか手引きを拡充させていくっていうような形を取っていければなあというふうに思っている。ちょっと率直なところまだ足腰が弱いというか、ただだいぶ骨格ができたかなっていうふうに思うので、この辺りは私たちの課題で、次年時以降できればなあというふうに思っている。（植上）  3．事業の成果物について  植上  →資料：「学習評価WG第5回」をもとに、事業の成果物について説明。  ――以下、資料の一部（３．事業の成果物について）のみ記載―  （1）研修プログラムのパワーポイント（2月14日締め切り）  ・全体のとりまとめ（小田・丹田）  　それぞれの時間の収集し、1つの研修パワーポイントとしてまとめる。  　冒頭のページで、研修全体を俯瞰できる図などを作成して加える。（植上→小田・丹田イメージ共有）  ⇒1月31日までに完成して、小田・丹田に集約  　⇒フォントの統一（後にやりとりをして確定・共有）  ・それぞれの時間の完成版（1時間目：植上）（2時間目：小田）（3時間目：佐藤）（4時間目：丹田）  　⇒1月31日までに完成して、小田・丹田に集約。  （2）研修プログラムの手引き（植上）（2月14日締め切り）  　A４3～4枚程度。研修プログラムの目的、各時間の構成と目的など。プログラム作成側の意図も書く。  ※（1）・（2）が成果物。  （3）成果の評価レポート  前回のWG：岩崎先生、近藤先生、田澤先生に研修を一緒に作っていく中で、研修を実際にやってみての気づきみたいなことを書いてもらう。この事業に関する評価をしていただくということ。  　→作った次のステップをどうやっていくのか  ・A４で1～2枚程度でそれぞれ。岩﨑・近藤・田澤。（←文科省に提出する実績報告書の中に参考資料として添付するイメージ）  （4）学習評価WGの成果報告動画（植上）  　5分程度で今年度の実績動画の作成。2月20日まで。 |
| 配布資料 |  |

以上